フレッシュ! 輝く未来

笹原 綾太

山形県

機上から眼下に広がる山々の濃緑のはざまの道を、先人芭蕉が行き交ったかと思うと
ロマンティックな気分になる。
「――閑(しずか)さや岩にしみ入る蝉の声――」の句で有名な通称「山寺」(立石寺)も近い。
尾花沢は最上川の中流に位置し、冬は日本三大豪雪地帯の一つに挙げられる。
この季節、名産の西瓜で賑わっていた。

職場でも窓口対応・祭りの打ち合わせと大活躍!

笹原綾太（ささはら りょうた）さんは尾花沢市役所勤務で、全通研歴は２年目。広報班長を務めています。エネルギーあふれるフレッシュな青年です。

手話との出会いは、ゆとり世代の中学校時代の体験授業でした。先生の思いつきだったのかもしれない「手話講座」は、15歳の心に深く染み入りました。

尾花沢市社会福祉協議会主催「手話教室」ではアシスタント（通訳・受講生の指導）をしています

高校時代は手話テキストを買って、一人で繰り返し試してみていたと言います。

進学した大学で手話サークルとの出会いが彼を開花させました。

手話コーラスや学習会の活動をしていたころ、大学のオープンキャンパスに訪れたろうの高校生の役に立てたことが良い思い出、と語ります。

平成24年4月より聴覚に障害のある人に対する道路交通法の改正が行われ、普通自動車限定から、小型特殊・原付・普通自動二輪・大型自動二輪へと拡大されました。

休日は職場の先輩や友人とツーリングに出かけていますが、同世代のろうの仲間とツーリングできる日を楽しみにしています。

山形通研の笑顔はじける先輩仲間に囲まれて

現在、日本の社会は「団塊の世代」が卒業する過渡期にあり若者たちのパワーを必要としています。

全通研にあっても、9ブロックで「U-35（アンダー）」の取り組みなど、未来を模索しています。

笹原青年の夢は、まず手話通訳者試験に合格すること。そして手話通訳士を目指し努力していくこと。

先人の創った道を進み、自らが切り開く日々の努力が、やがて未来へと続く。

――蚕飼（こがひ）する人は古代のすがた哉――

曽良

先人を詠った芭蕉たちの句に思いを馳せる。

写真 / 文　松本　博